

臨床推論の構築

責任者名：本吉 満(歯科矯正学)

学期：後期

対象学年：5年

授業形式等：演習

◆担当教員

本吉 満(歯科矯正学 教授)

清水 康平(歯科保存学Ⅱ 准教授)

高田 宏起(歯科補綴学Ⅲ 助教)

大山 哲生(歯科補綴学Ⅱ 専任講師)

小森谷 康司(歯科保存学Ⅰ 助教)

浦田 健太郎(歯科補綴学Ⅰ 専任講師)

関 啓介(総合歯科学 専任講師)

新井 嘉則(歯科放射線学 教授)

松本 邦史(歯科放射線学 准教授)

生木 俊輔(口腔外科学Ⅱ 専任講師)

篠塚 啓二(口腔外科学Ⅰ 専任講師)

篠崎 貴弘(口腔内科学 専任講師)

馬谷原 琴枝(歯科矯正学 准教授)

阿部 仁子(摂食機能療法学 准教授)

菊入 崇(小児歯科学 教授)

小柳 裕子(歯科麻酔学 准教授)

西尾 健介(歯科補綴学Ⅰ 助教)

◆一般目標 (GIO)

症例ごとのクリニカルパスに沿った治療を行うために、各症例の症状と所見からその症例における病態の診断と治療計画を導き出す能力と、治療を遂行する能力を身につける。

◆到達目標 (SBOs)

1. 医療面接の知識や患者および種々の情報源から、必要な患者情報を収集できる。
2. 各症例の症状のメカニズムに関する知識やその症状から診断を導き出すことができる。
3. 症例ごとに適した検査、クリニカルパスに沿った治療計画を立案することができる。
4. 治療方針に基づいて問題を解決するための的確な診療手順、使用する器具や器材および患者管理について述べるることができる。

◆評価方法

2回の平常試験で評価する(各平常試験50%で計100%とする)。

平常試験の試験解説を行うことで学生へフィードバックを行う。

演習教科のため出席を前提とする。遅刻、欠席(忌引、公欠を除く)はマイナス評価とし、減点する。

◆オフィス・アワー

| 担当教員 | 対応時間・場所など | メールアドレス・連絡先 | 備考 |
|--------|----------------------------|----------------------------------|----|
| 本吉 満 | 月曜日 17:00~18:00 | motoyoshi.mitsuru@nihon-u.ac.jp | |
| 清水 康平 | 月曜日 17:00~18:00 | shimizu.kouhei01@nihon-u.ac.jp | |
| 高田 宏起 | 月曜日 17:00~18:00 | takata.hiroki@nihon-u.ac.jp | |
| 大山 哲生 | 月曜日 17:00~18:00 | ohyama.tetsuo@nihon-u.ac.jp | |
| 小森谷 康司 | 月曜日 17:00~18:00 | shiratsuchi.koji@nihon-u.ac.jp | |
| 浦田 健太郎 | 月曜日 17:00~18:00 | urata.kenntarou@nihon-u.ac.jp | |
| 関 啓介 | 月曜日 17:00~18:00 | seki.keisuke@nihon-u.ac.jp | |
| 新井 嘉則 | 月曜日 17:00~18:00 | arai.yoshinori@nihon-u.ac.jp | |
| 松本 邦史 | 月曜日 17:00~18:00 | matsumoto.kunihito@nihon-u.ac.jp | |
| 生木 俊輔 | 月曜日 17:00~18:00 | namaki.shunsuke@nihon-u.ac.jp | |
| 篠塚 啓二 | 月曜日 17:00~18:00 | shinozuka.keiji@nihon-u.ac.jp | |
| 小柳 裕子 | 月曜日 17:00~18:00 | koyanagi.yuuko@nihon-u.ac.jp | |
| 篠崎 貴弘 | 月曜日 17:00~18:00 | shinozaki.takahiro@nihon-u.ac.jp | |
| 馬谷原 琴枝 | 月曜日 17:00~18:00 | mayahara.kotoe@nihon-u.ac.jp | |
| 阿部 仁子 | 月曜日 17:00~18:00 | abe.kimiko@nihon-u.ac.jp | |
| 菊入 崇 | 月曜日 17:00~18:00 小児歯科学講座 | kikuri.takashi@nihon-u.ac.jp | |

◆授業の方法

講義・演習

診断に要する基礎的知識の講義と、診断と治療計画の立案する演習を行う。

平常試験を実施し、次の講義にて解説を実施する。

【実務経験】本吉満：日本大学歯学部附属歯科病院での臨床経験を交えつつ病態の診断と治療計画を考える場を提供したいと考えています。

◆教材 (教科書、参考図書、プリント等)

| 種別 | 図書名 | 著者名 | 出版社名 | 発行年 |
|------|-------------------------------------|--------|------|------|
| 参考図書 | Case Based Review 画像診断に強くなる顎口腔領域の疾患 | 金田隆 | 永末書店 | 2017 |
| 教材冊子 | 秘伝の麻酔 (令和 5-6 年度版) | 小柳裕子 | 蓼科印刷 | 2023 |
| 教材冊子 | 秘伝の麻酔一問題集ー (令和 5-6 年度版) | 小柳裕子 他 | 蓼科印刷 | 2023 |

◆DP・CP

コンピテンス 3 : リサーチマインド

コンピテンシー : 3-1, 3-2

対応するディプロマ・ポリシー : DP3

◆準備学習(予習・復習)

関連する教科の教科書などを読み、これまでに学修した内容を復習するとともに、蓄積した知識、理解度の再確認をしておくこと。

◆準備学習時間

授業時間半分相当を充てて予習あるいは復習を行うこと。

◆全学年を通しての関連教科

歯科学統合演習IV (4年通年)

顎機能治療学 (4年前期)

歯内療法学 (4年前期)

歯周病学 (4年前期)

口腔外科手術と顎変形症 (4年前期)

歯科矯正学 (4年前期)

小児の歯科診療の基礎 (3年後期)

歯科放射線学総論 (3年前期)

口腔診断学 (4年後期)

口腔外科治療の実際 (4年後期)

◆予定表

注意事項 : 授業には、自分がこれまでに活用した教科書、参考書あるいは配布資料などを持参のうえ出席すること。

| 回 | クラス | 月日 | 時間 | 学習項目 | 学修到達目標 | 担当 | コアカリキュラム |
|---|-----|------|----|----------------------|--------------------------------------|-------|--------------------|
| 1 | | 6.23 | 6 | 歯内療法 1 1) 可逆性歯髄炎の | ・ 現症の診査法を説明できる。 ・ 可逆性歯髄炎と不可逆性歯髄炎の | 清水 康平 | A-2 医学知識 と問題対応能 |

| | | | | | | | |
|---|--|------|---|--|--|--------|---------------------|
| | | | | 診断と処置方針 2) 不可逆性歯髄炎の診断と処置方針 | 違いを述べることができる。 ・可逆性歯髄炎と不可逆性歯髄炎の治療法を述べることができる。 | | 力 |
| 2 | | 6.23 | 7 | 歯内療法 2 3) 根尖性歯周炎の診断と処置方針 4) 外科的歯内療法 の適応症と術式 | ・根尖性歯周炎の診査・診断法について説明できる。 ・根尖性歯周炎の治療法について述べる ことができる。 ・外科的歯内療法について説明できる。 ・外科的歯内療法 の適応症と処置方針について説明できる。 | 清水 康平 | A-2 医学知識 と問題対応能力 |
| 3 | | 6.23 | 8 | クラウン・ブリッジ 1 | ・ 歯冠補綴，少数歯欠損症例の診察と診断について説明できる。 ・ 必要となる検査法の選択，治療計画の立案について説明できる。 | 高田 宏起 | A-2 医学知識 と問題対応能力 |
| 4 | | 6.30 | 6 | クラウン・ブリッジ 2 | ・ 治療計画を左右する因子を述べる ことができる。 ・ 基本的な治療の進め方を説明できる。 | 高田 宏起 | A-2 医学知識 と問題対応能力 |
| 5 | | 6.30 | 7 | 保存修復 1 1)歯の硬組織疾患 の処置方針 | ・ 歯の硬組織疾患（tooth wear（酸蝕症，咬耗，摩耗等），歯の変色，象牙質知覚過敏症を含む）の処置方針を説明できる。 | 小森谷 康司 | A-2 医学知識 と問題対応能力 |
| 6 | | 6.30 | 8 | 保存修復 2 歯の硬組織疾患の 処置の実際 | ・ 歯の硬組織疾患（toothwearを含む）に対するコンポジットレジン修復の臨床術式を説明できる。 | 小森谷 康司 | A-2 医学知識 と問題対応能力 |
| 7 | | 7.7 | 6 | 総義歯 1 | ・ 総義歯補綴治療において，医療面接，基本的診察および検査結果の情報を系統立て，的確な診断と治療法を選択することができる。 | 浦田 健太郎 | A-2 医学知識 と問題対応能力 |
| 8 | | 7.7 | 7 | 総義歯 2 | ・ 治療方針に基づいて問題を解決するため，的確な診察の手順，使用する器具や器材，および患者管理について述べる ことができる。 | 浦田 健太郎 | A-2 医学知識 と問題対応能力 |
| 9 | | 7.7 | 8 | インプラント 1 | ・ 口腔インプラントを用いた欠損治 | 関 啓介 | A-2 医学知識 |

| | | | | | | | |
|----|--|------|---|------------------------------------|--|-------|-----------------|
| | | | | 1) インプラント治療の概要 2) インプラント治療の適応症例 | 療の概要を説明できる。 ・口腔インプラント治療の適応症例や検査項目を説明できる。 | | と問題対応能力 |
| 10 | | 7.14 | 6 | インプラント2 3) 検査・診断と治療計画 | ・口腔インプラント症例の診査・診断を適切に行うことができる。 ・治療計画を立案できる。 ・患者に治療計画並びに治療効果を説明できる。 | 関 啓介 | A-2 医学知識と問題対応能力 |
| 11 | | 7.14 | 7 | 画像診断1 顎骨・口腔領域の疾患I | ・顎骨・口腔領域に発生する嚢胞・腫瘍・炎症・外傷の画像的特徴と診断を説明できる。 | 新井 嘉則 | A-2 医学知識と問題対応能力 |
| 12 | | 7.14 | 8 | 画像診断2 顎骨・口腔領域の疾患II | ・顎骨・口腔領域に発生する嚢胞・腫瘍・炎症・外傷の画像的特徴と診断を説明できる。 | 新井 嘉則 | A-2 医学知識と問題対応能力 |
| 13 | | 7.21 | 6 | 画像診断3 画像診断演習I | ・顎骨・口腔領域に発生する嚢胞・腫瘍・炎症・外傷の画像的特徴と診断を説明できる。 | 松本 邦史 | A-2 医学知識と問題対応能力 |
| 14 | | 7.21 | 7 | 画像診断4 画像診断演習II | ・病歴、臨床検査、画像検査の情報から顎骨・口腔領域に発生する嚢胞・腫瘍・炎症・外傷の診断ができる。 | 松本 邦史 | A-2 医学知識と問題対応能力 |
| 15 | | 7.21 | 8 | 画像診断5 画像診断演習III | ・病歴、臨床検査、画像検査の情報から顎骨・口腔領域に発生する嚢胞・腫瘍・炎症・外傷の診断ができる。 | 松本 邦史 | A-2 医学知識と問題対応能力 |
| 16 | | 7.24 | 6 | 口腔外科 1) 口腔粘膜疾患 2) 唾液腺疾患 | ・口腔粘膜に発生する疾患について述べることができる。 ・唾液腺に発生する疾患を述べることができる。 | 篠塚 啓二 | A-2 医学知識と問題対応能力 |
| 17 | | 7.24 | 7 | 口腔外科 3) 外傷と先天異常 | ・上下顎骨骨折の種類について確認し、その好発部位・臨床症状について述べることができる。 ・奇形・変形の種類を再確認し、それぞれの治療法を解説することができる。 | 生木 俊輔 | A-2 医学知識と問題対応能力 |

| | | | | | | | |
|----|--|------|---|--------------------------|--|---|---------------------|
| | | | | | きる。 | | |
| 18 | | 7.24 | 8 | 口腔外科 4) 顎変形症 | ・顎変形症に対する手術計画立案と術式について説明することができる。 | 篠塚 啓二 | A-2 医学知識 と問題対応能力 |
| 19 | | 7.25 | 1 | 平常試験 1 | ・臨床推論の構築の内容（1回～18回）について試験を行い、習熟度を評価する。 | 馬谷原 琴枝 | A-2 医学知識 と問題対応能力 |
| 20 | | 7.25 | 2 | 平常試験 1 | ・臨床推論の構築の内容（1回～18回）について試験を行い、習熟度を評価する。 | 馬谷原 琴枝 | A-2 医学知識 と問題対応能力 |
| 21 | | 7.25 | 3 | 平常試験 1 解説 | ・解説により授業内容の理解度の確認及び習熟を図る。 | 小森谷 康司 浦田 健太郎 清水 康平 大山 哲生 関 啓介 松本 邦史 新井 嘉則 高田 宏起 篠塚 啓二 生木 俊輔 馬谷原 琴枝 | A-2 医学知識 と問題対応能力 |
| 22 | | 12.6 | 7 | 顎顔面補綴 | ・顎補綴症例の診断および治療のクリニカルパスウェイを理解する。 ・手術後の形態と機能の変化について説明できる。 ・術後治療から最終補綴物装着までの過程を説明できる。 ・顎義歯の目的を説明できる。 ・顎顔面補綴の概要を説明できる。 | 大山 哲生 | A-2 医学知識 と問題対応能力 |
| 23 | | 12.6 | 8 | 顎関節 1) 顎関節症の診 査・診断 | ・顎関節症症例の診察、検査について説明できる。 ・病態診断と原因の推測について説 | 西尾 健介 | A-2 医学知識 と問題対応能力 |

| | | | | | | | |
|----|--|-------|---|---|--|------------|---|
| | | | | | 明できる。 ・適切な治療法の選択について説明できる。 | | |
| 24 | | 12.13 | 5 | 歯科麻酔 歯科診療に必要な全身管理 | ・歯科治療時の全身的偶発症について説明できる。 | 小柳 裕子 | A-2 医学知識 と問題対応能力 |
| 25 | | 12.13 | 6 | 歯科矯正 1) 不正咬合の原因と診査・診断 | ・不正咬合の病因・病態を述べる ことができる。 ・不正咬合の診査・診断を説明 できる。 | 馬谷原 琴 枝 | A-2 医学知識 と問題対応能力 |
| 26 | | 12.13 | 7 | 歯科矯正 2) 矯正治療の実際 | ・診断に基づいた歯科矯正治療の 流れを述べる ことができる。 ・各種矯正装置の適応症を述べる ことができる。 | 馬谷原 琴 枝 | A-2 医学知識 と問題対応能力 |
| 27 | | 12.13 | 8 | ペイン | ・神経障害性疼痛について説明 できる。 ・三叉神経痛の特徴について述べる ことができる。 ・三叉神経痛・帯状疱疹・外傷性三 叉神経障害（症例提示）に対して必 要な検査項目について説明できる。 ・三叉神経痛・帯状疱疹を症状から 診断し、治療法を説明できる。 ・外傷性三叉神経障害（神経障害性 疼痛）を病歴と症状から診断し、必 要な検査と治療法を説明できる。 | 篠崎 貴弘 | A-2 医学知識 と問題対応能力 |
| 28 | | 12.20 | 5 | 高齢者・摂食機能 障害 1) 摂食機能療法 （総論） | ・摂食機能療法の基本的な理念とそ の実際を述べる ことができる。 ・摂食機能療法の診査・診断、対応 について述べる ことができる。 | 阿部 仁子 | A-2 医学知識 と問題対応能力 E-5-1)高齢者 の歯科治療 |
| 29 | | 12.20 | 6 | 高齢者・摂食機能 障害 1) 摂食機能療法 （各論） 2) 口腔機能低下 症 | ・口腔機能低下症について述べる ことができる。 | 阿部 仁子 | A-2 医学知識 と問題対応能力 E-5-1)高齢者 の歯科治療 |

| | | | | | | |
|----|-------|---|---|---|---|--|
| 30 | 12.20 | 7 | 小児歯科 1) 小児期における 歯の外傷の診断、 治療 2) 乳歯列期, 混合 歯列期の咬合発育 診断 | <ul style="list-style-type: none"> ・乳歯および幼若永久歯の外傷の発生状況と診察時の留意点を述べるができる。 ・受傷歯の病態と診断方法を述べることができる。 ・受傷歯の治療方法と起こり得る予後を述べるができる。 ・歯の外傷が咬合発育に及ぼす影響とその対応法について説明できる。 | 菊入 崇 | A-2 医学知識 と問題対応能力 E-5-1)高年齢者の 歯科治療 |
| 31 | 12.20 | 8 | 障害者歯科 1)スペシャルニーズのある小児の歯科治療 2)小児から成人への移行期における障害者歯科治療 | <ul style="list-style-type: none"> ・知的能力障害のある小児および成人の歯科治療の留意点を説明できる。 ・発達障害児に対する歯科治療の留意点を説明できる。 ・有病小児の歯科治療にあたっての留意点を説明できる。 ・移行期における障害者の歯科的問題点を説明できる。 | 菊入 崇 | A-2 医学知識 と問題対応能力 |
| 32 | 12.27 | 5 | 平常試験 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・臨床推論の構築の内容について試験を行い, 習熟度を評価する。 | 馬谷原 琴枝 | A-2 医学知識 と問題対応能力 |
| 33 | 12.27 | 6 | 平常試験 2 解説 | <ul style="list-style-type: none"> ・解説により授業内容の理解度の確認及び習熟を図る。 | 西尾 健介 大山 哲生 小柳 裕子 阿部 仁子 篠崎 貴弘 菊入 崇 馬谷原 琴枝 | A-2 医学知識 と問題対応能力 |

